

神野まちづくり協議会

第31号

『会報』令和4年6月22日発行

令和4年度総会

昨年度に続き、書面による決議方式で開催

神野まちづくり協議会令和4年度定時総会は、新型コロナウイルス感染状況から、昨年、一昨年度と同様、書面をもっての総会となりました。

書面による決議方式の決定に至るまでは、数回にわたり慎重に検討され、最終的には令和4年5月18日開催の役員会で決定されたものです。

書面議決により令和3年度事業報告など5つの議案が提案され、全議案はすべて原案のとおり承認可決されました。

提出議案 ⇒ 第1号議案 令和3年度事業報告について・第2号議案 令和3年度決算報告について
・第3号議案 令和4年度事業計画について・第4号議案 令和4年度予算について
・第5号議案 令和4年度役員改選について

なお、馬場久雄会長は冒頭に次の通り挨拶されました。

ごあいさつ

はじめに令和4年度神野まちづくり協議会総会は、昨年、一昨年と同じく書面による開催とさせていただき、皆様のご協力を得て無事に終了することができました。

さて、コロナ禍にあっても、皆様方におかれましては、健やかにお過ごしのことと存じます。平素より『神野まちづくり協議会』にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。平成26年(2014年)6月、“つながろう！輪になろう！支えあうまち神野！”をスローガンに掲げ神野地区に居住している人たちがお互いの交流を図り、豊かな住みやすいまちを創ろうと、神野まちづくり協議会を立ち上げてから8年経過しました。その間「夏まつり」「体育祭」をはじめ多くのイベントに取り組み、参加人員や内容的な面から、それなりの実績をあげることが出来たと思っています。

しかしながら、過去2年間はコロナ禍で、計画していたそのほとんどの事業を残念ですが中止せざるを得ませんでした。設立当時みんなが描いていた『絆』をますます強く強固なものにしなければならなかった過去2年間は、世界の社会経済活動まで脅かされ、校区民の『絆』づくりも希薄しているのではと心配です。

今また感染力の強いオミクロン株の影響で感染者数の高止まり状態にあるのが現状です。感染予防対策のさらなる強化が必要です。『うつらない！うつさない！』のためにも皆様ととももしっかりした予防対策を実行していきましょう。

一方ワクチン接種の3回目が終わらない状況下で4回目の接種が検討されております。また治療薬の承認もなされ、収束に向かっていくであろうことに期待を寄せたいと思っています。

当協議会の令和4年度は過去2年間のブランクを糧として、更に充実した活動を目指して行きますので、皆さまのますますのご支援ご協力をお願いいたします。

最後になりますが、皆様のますますのご健勝を祈念してあいさつとさせていただきます。

令和4年5月吉日

神野まちづくり協議会 会長 馬場 久雄

《夏まつり2022》は開催へ向け、実行委員会を発足！

懸案事項でありました令和4年度の神野校区夏まつり2022は、3年ぶりの開催へ向けて実行委員会を発足することとなりました。馬場会長は6月1日に神野校区各種団体代表者会議を臨時招集し、会議に出席した団体等代表者全員に意見を求め、結果を踏まえて塚原康弘実行委員長の下、『神野校区夏まつり実行委員会』発足を決定しました。

神野ってどんなまち？

15 神野と農業

明治24年、佐賀駅ができる以前の神野村は、商工業中心の佐賀市とは明確に識別できる農村であった。明治8年の調査（「佐賀県管轄各小区戸籍職分統計」）によると、神野村に隣の^{ふち}湊村、^{ふじのき}藤木村（いずれも現兵庫町）を含めた区域の就業人口別割合は、「農業」が実に91%を占め、住民10人のうち9人は農家であった。

神野村内に佐賀駅が開業した頃から、駅の周辺や堀江通り沿いを中心に商、工業地が形成され、拡大していったため、農家数は順次減少を続けた。それでも神野村が佐賀市と合併する大正11年時点では、なお自作、小作併せ263戸もの農家（専業102戸、兼業161戸）が神野村で農業に従事していた。

当時の主要な栽培形態は稲作が主体で、水田裏作物には麦が一番多く作付けされていた。5～7月の麦刈りと田植え、10～11月の稲刈りと麦播きの時期には、いたる所で家族総出の農作業風景が見られた。

（とくに郡部の農村では春と秋の農繁期^{のうはん}は、子供たちが農作業の手伝いをするため、小中学校は休みになった。）神野におけるこのような農業形態は昭和40年代まで続いたが、その後、高度経済成長期における住宅の増加等で農地、農家数は急速に減少、また、農業の機械化で農作業の風景も大きく変わった。現在、神野（上記合併当時の区域）の農家数は40戸程度と減少し、神野地区以外に農地を持ち、農業をする人も多いため、身近に農作業を見る機会も少なくなった。

なお、明治時代の神野村には、大字多布施に県立佐賀農学校（明治28年～大正8年）が、大字神野（草場）に佐賀県農業試験場（明治33年～昭和27年）が置かれるなど、当時の神野村は佐賀県における農業技術改良の発信拠点^{はっしんきょてん}でもあった。

（出典：「佐賀市史」、農業団体聞き取り）

まち協 今後の予定

7 月	1日（金）防犯防災部会	13日（水）夏まつり実行委員会	19（火）集い交流部会
	20日（水）まち協役員会	27日（水）まち協連絡会	
8 月	17日（水）まち協役員会	24日（水）まち協連絡会	
9 月	20日（火）次の担い手部会	21日（水）まち協役員会	28日（水）まち協連絡会
	毎月毎週水曜日 脳トレ「神野塾」（ご近所部会主催）		

人と人がつながる佐賀市の地域コミュニティサイト

<http://www.tsunasaga.jp/>

つながろう！ 輪になろう！ 支えあうまち神野

神野まちづくり協議会役員、代議員、部会運営委員、監事名簿

役 員

会 長	馬場 久雄 (自 治 会・留任)
副 会 長	塚原 康弘 (自 治 会・留任)
事務局長	御厨 洋行 (神 園・新任)
会 計	武富 直子 (自 治 会・留任)
理 事	松林 健雄 (上 中・留任)
	西村 彊 (東 神 野・留任)
	梶尾 聰恵 (社 協・留任)
	緒方 直子 (女性の会・留任)
	樋口 博 (公 民 館・留任)

代 議 員

(駅 東)	三浦美佐子 (留任)	(神 園)	今成 富雄 (留任)
	野方 正季 (留任)		前田美智子 (留任)
(新 家)	井崎 佳子 (留任)	(上 東)	石隈 久夫 (留任)
(三 溝)	平川真佐枝 (留任)	(上 中)	今吉 正 (留任)
	石橋 英彦 (留任)		霧 淳嗣 (留任)
(駅 西)	田中多美子 (留任)	(上 西)	宮地 秀利 (留任)
	安藤 勝正 (新任)		納富 昭夫 (留任)
(草 場)	松尾 明生 (留任)		大木安紀夫 (留任)
	松本 良明 (留任)	(多布施)	芦名 利雄 (留任)
(東神野)	川崎 正代 (留任)		新川万里子 (留任)
	藤原 芳洋 (留任)	(多布施南)	田中 康広 (留任)
(西神野)	飯盛みゆき (留任)		

監 事

内田 健一 (福 寿 会・留任)
中村トナミ (女性の会・留任)

(令和4年度)